

氏名(本籍)	あき 秋	やま 山	なかば 央	(静岡県)
学位の種類	博士(コーチング学)			
学位記番号	博甲第5143号			
学位授与年月日	平成21年3月25日			
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当			
審査研究科	人間総合科学研究科			
学位論文題目	男子バレーボールのコンビネーション攻撃におけるセッターのパフォーマンス評価に関する研究			
主査	筑波大学准教授	博士(工学)	浅井	武
副査	筑波大学教授		都澤	凡夫
副査	筑波大学教授		中川	昭
副査	筑波大学准教授	博士(工学)	高木	英樹

論文の内容の要旨

1. 目的

本研究は「自チームの攻撃力を最大限に引き出す」というセッターの最も重要な役割の中で、「コンビネーション攻撃を合目的に用いて相手ブロッカーの少ない状況を作る」という観点からセッターのパフォーマンスを評価するための新しい評価基準を作成し、このパフォーマンス評価基準を実際にコーチング現場で活用することによって、セッターのゲームパフォーマンスを向上させることを目的としたものである。

2. 対象と方法

上記の課題を達成するために第2章から第3章までの2つの研究課題を設定した。

【第2章 セッターのパフォーマンス評価基準の作成】

下位課題I-1では、レセプションがセッターに正確に返球されたときの代表的なコンビネーション攻撃を、グループ戦術の観点から各コンビネーション攻撃の中心と考えられる3人のスパイカーの助走路の形状に従って5種類に分類した。この5種類に分類したコンビネーション攻撃の各々について、バレーボールの戦術に関する先行研究を手掛りにして、それぞれのコンビネーション攻撃における各配球の成功の基準を論理的に導出し「セッターのパフォーマンス評価基準」を提示した。

下位課題I-2では、下位課題I-1で提示した「セッターのパフォーマンス評価基準」の各項目の内容について、バレーボールの専門家であるV・プレミアリーグ監督およびVリーグ監督経験者による検討結果に基づいて妥当評価率を算出した結果、各項目ともに高い妥当評価率を示した。次に、データ分析の専門家であるV・プレミアリーグのアナリストとアナリスト経験者の2名に、同一のセッター1名を対象にして「セッターのパフォーマンス評価基準」を用いてセッターのゲームパフォーマンスの評価を依頼し、この2人の評価結果の一致率を各項目について算出した結果、各項目ともに高い一致率を示した。さらに「セッターのパフォーマンス評価基準」に基づいて、国内大学トップレベルの7人のセッターと世界トップレベルの4人のセッターのパフォーマンス評価基準クリア率を算出し比較した結果、各セッターの評価基準クリア率に差異が生じることが明らかになった。以上のことからセッターのパフォーマンス評価基準の内容は妥当性、客観性、

有用性を有していると考えられた。

【第3章 セッターのパフォーマンス評価基準を活用した実践研究】

下位課題 II-1 では、「セッターのパフォーマンス評価基準」に基づいて Ts 大学セッターの春季リーグ戦におけるゲームパフォーマンスを分析し、これに基づいて、この時点におけるコンビネーション攻撃の配球の課題を抽出した。その結果、Ts 大学セッターのコンビネーション攻撃における配球の課題は2つのコンビネーション攻撃に関連する3項目の課題であることを明らかにした。

下位課題 II-2 では、下位課題 II-1 で抽出した Ts 大学セッターのコンビネーション攻撃における配球の課題を改善することを練習目標に置き、この目標を達成するために、Ts 大学セッターに求められる修正課題について練習を構成し、春季リーグ戦後から秋季リーグ戦までの間の約12週間で実施した。その結果、Ts 大学セッターの修正課題が改善され、競技パフォーマンスも向上した。

3. 結論

本研究では、代表的なコンビネーション攻撃を3人のスパイカーの助走路の形状に従って5種類に分類し、それぞれのコンビネーション攻撃における各配球の成功の基準を論理的に導出した「セッターのパフォーマンス評価基準」を開発した。また、その、評価基準の妥当性、客観性、有用性について検証した。さらに、そのパフォーマンス評価基準を、大学一流セッターを被験者として適用し、実際にコーチング現場で活用することによって、競技力が向上することを実証的に明らかにした。

審査の結果の要旨

本論は、バレーボールのセッターのパフォーマンス自体を独立して評価する方法を提示し、その妥当性、客観性、有用性について検討し論じており、その新規性、独創性は高く評価できる。また、その研究成果を実際の競技場面に適用し、セッターのパフォーマンスを向上させることに効果があることを、実証的に検証しようとしていることも、コーチング学の論文として評価できる。全体の構成も明確で、方法も詳細に記述されており、反証可能性も保障されている。

よって、著者は博士（コーチング学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。